


イブキシモツケ		<i>Spiraea dasyantha</i> Bunge	準絶滅危惧
			バラ科
選定理由	県内では産地が限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。		写真(高橋弘) 
形態の特徴	落葉低木。葉は紙質-革質で卵形-広卵形、菱状長楕円形、不規則な鋭浅裂縁、上面は脈がへこみ、下面は脈が顕著に隆起し褐色軟毛を密生。花は4-6月、葉がある短い枝先にやや凸状の散房花序に20-30花をつける。花筒外面に軟毛密生。萼片5、開出し三角形、花後も外曲しない。花弁5、白色、円形-楕円形、萼片より長い。雄蕊約20、花弁より長い。雌蕊5。袋果は開出する。		
生態的特徴	西日本の石灰岩地などの樹林林縁や草地に生育する。		
分布状況	西日本(東海以西の本州、四国、九州)に分布。県内では県南中西部山地に局所的に分布。分布の東限にあたる。		
減少要因	山林管理の停滞に起因する林縁の樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。		
保全対策	山林管理の促進による林縁の低~中茎草地の維持、林床の日照確保。		
特記事項	アイズシモツケにやや似るが、アイズシモツケ <i>Spiraea chamaedryfolia</i> L. var. <i>pilosa</i> (Nakai) H. Haraは県の東部に分布して、萼片は反曲し、葉の裏面は脈は隆起せず、軟毛はあっても密生せず、褐色ではない。		
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 4. <i>Spiraea</i> L.. H. Ikeda		

文責: 高野裕行